

# 大会規定

1. チームの登録選手中学部は、11名以上25名以内(ベンチ入りは20名以内)小学部は、11名以上20名以内とする。
2. 審査証は2019年度発行のものとする。
3. オーダー表記入選手20名以内及びチーム責任者、登録された監督、コーチ及びマネジャーのみがベンチに入ることができる。  
但し、各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)及び審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチに入れな  
チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査のうえベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに  
間にあった場合は、審査のうえベンチ入りできる。チーム責任者が不在の場合は試合できない。

## ■資格審査方法と手順(大会運用細則マニュアルより抜粋)

- ①審査員は原則として、大会役員が2名2組で行うものとし、使用用具の審査は審判員もすることができる。審査を受けていない用具は  
ベンチへの持ち込みを禁止する。
  - ②審査は、ウォーミングアップを中断させないように配慮する。
  - ③資格審査内容は、連盟の審査要項・大会規定・特別規定に基づいて行うこと。
  - ④指導者、選手を整列させ登録名簿原簿と指導者登録証、審査カードとの照合と有効期限の確認を行う。
  - ⑤第2試合目のチームの審査は第1試合の4回終了を待たずに行ってもよい。又、4項①チーム到着後所定の審査を受けられるよう  
準備が出来れば審査してもよい。
- ※指導者(チーム責任者・監督・コーチ・マネジャー)、選手を整列させ、指導者、選手の服装と指導者登録証の携帯と登録名簿原簿  
との照合を行うと同時にカードの有効期限の確認を行う。
4. 組合せの若番号が1 塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
  5. 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
  6. 試合開始時刻60分前に試合場に到着し、所定の審査を受け、直ちにオーダー表を5部審判部に提出しなければならない。
  7. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
  8. 試合開始までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
  9. 試合方式など

## ■中学生の部(中学生ジュニアの部含む)

- (1) 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。  
試合成立後は試合開始から2時間を超えた場合、新しいイニングには入らない。  
また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。  
同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。  
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
- (2) 4回終了時10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
- (3) 7回終了後、同点の場合は最終日のみ延長戦に入るが、延長8回(決勝戦は10回)あるいは試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)  
を超えては(どちらか早い方)新しいイニングには入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)  
すなわち、最終日以外の同点の場合は、延長戦・タイブレークを実施せず抽選とする。

## ■小学生の部(小学生ジュニアの部は別途特別規則による)

- (1) 各試合は6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。  
試合成立後は試合開始から1時間40分を超えた場合、新しいイニングには入らない。  
また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。  
同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。  
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
- (2) 4回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
- (3) 6回終了後、同点の場合は最終日のみ延長戦に入るが、延長7回(決勝戦は9回)あるいは試合開始から1時間40分(決勝戦は2時間)  
を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)  
すなわち、最終日以外の同点の場合は、延長戦・タイブレークを実施せず抽選とする。

10. 小学生の部は1日6イニング以内、連続する2日間で8イニング以内とする。

中学生の部は1日7イニング以内、連続する2日間で10イニング以内とする。※

11. ダブルヘッダーでは連投を認めるが、投球回数を小学生の部は6回、中学生の部は7回以内とする。

例えば、1試合目で5回投げた場合には、次の試合で小学生の部は1回、中学生の部は2回投げることができる。

ただし、端数回数(0/3回1/3回・2/3回)は切り上げて1回とする。

端数回数の0/3回は、新しいイニングに入って一死もとらずに降板した場合を示す。なお、小学生の部は変化球を禁止する。

※中学生の部は、別紙統一ガイドラインによる 投球回数制限を行うこととする。